


教員
おすすめ
図書 2019

城西大学水田記念図書館

Copyright (C) Josai University Mizuta Memorial Library All rights reserved.



この小冊子では、教員が
「学生に読んでもらいたい本」
として推薦した図書を紹介しています。
読書を通して、教員との交流を
楽しんでみてください。

※図書は1階「教員おすすめ図書コーナー」
にあります。

目次

■ 学長 白幡晶先生	1
■ 図書館長 関俊暢先生(薬学部薬学科)	1
■ 経済学部経済学科 石川共平先生	2
■ 経済学部経済学科 江良亮先生	2
■ 経済学部経済学科 小口千明先生	3
■ 経済学部経済学科 河村徳士先生	4
■ 経済学部経済学科 神崎直美先生	5
■ 経済学部経済学科 勝浦信幸先生	9
■ 経済学部経済学科 小林孝雄先生	11
■ 経済学部経済学科 小山真理子先生	12
■ 経済学部経済学科 清水昭男先生	14
■ 経済学部経済学科 場勝義雄先生	15
■ 現代政策学部社会経済システム学科 飯塚智規先生	17
■ 現代政策学部社会経済システム学科 市川直子先生	18
■ 現代政策学部社会経済システム学科 大菌陽子先生	19
■ 現代政策学部社会経済システム学科 土屋正臣先生	20
■ 現代政策学部社会経済システム学科 松野民雄先生	21
■ 現代政策学部社会経済システム学科 真殿仁美先生	21
■ 現代政策学部社会経済システム学科 持丸邦子先生	27
■ 現代政策学部社会経済システム学科 柳澤智美先生	28
■ 経営学部マネジメント総合学科 田部溪哉先生	29
■ 経営学部マネジメント総合学科 千葉佳裕先生	30
■ 理学部数学科 神島芳宣先生	30
■ 理学部数学科 小木曾岳義先生	35
■ 理学部化学科 石川満先生	35
■ 理学部化学科 宇和田貴之先生	36
■ 理学部化学科 竹村哲雄先生	41
■ 理学部教養 伊藤陽先生	46
■ 薬学部薬学科 荻原政彦先生	47
■ 薬学部薬学科 武内智春先生	47
■ 薬学部薬学科 畑中朋美先生	47
■ 薬学部薬学科 渡辺知恵先生	48
■ 薬学部薬科学科 杉林堅次先生	49
■ 薬学部医療栄養学科 君羅好史先生	50
■ 薬学部医療栄養学科 山王丸靖子先生	50
■ 薬学部医療栄養学科 中里見真紀先生	51
■ 薬学部医療栄養学科 松本明世先生	53
■ 薬学部医療栄養学科 松本明世先生 / 藤縄善朗鶴ヶ島市長	54

■ 薬学部医療栄養学科 真野博先生	54
■ 薬学部医療栄養学科 松本明世先生、真野博先生	55
■ 語学教育センター 高嶺エヴァ先生	56
■ 語学教育センター 中村一輝先生	56
■ 短期大学ビジネス総合学科 杵淵友子先生	57



学長 白幡晶先生

知的生産の技術

梅棹忠夫 著／岩波書店 002.7//U73

高校2年の時に、大人になった気分で、夢中になって読んだ本です。著者は日本の文化人類学のパイオニアであり、知性の巨人のような人ですが、題名のイメージとは異なり、文章も分かりやすく楽しめると思います。物事を整理して考えるとはどういうことか、大学に入ってから何度も読み直し、僕の基本的な考え方をについた一冊といえます。



ソロモンの指環：動物行動学入門

コンラート・ローレンツ 著／日高敏隆 訳／早川書房

481.78//L88

著者は、ノーベル賞を受賞した著名な動物学者ですが、観察の鋭さに衝撃を受けつつも、ワクワク感いっぱい楽しく読めると思います。ソロモン王の指輪をすると動物の話がわかるようになるという伝説にあるような、愛情に満ちた観察と色々な動物とのやりとりを通して、動物の見方、物事への感じ方が大きく変わる一冊です。



図書館長 関俊暢先生（薬学部薬学科）

われ思うゆえに思考実験あり

：最新科学理論がもたらす究極の知的冒険

橋元淳一郎 著／早川書房 404//H38

アインシュタインの相対性理論の入門本を読んだことがある方なら、光速に限りなく近い速度で走行する列車に乗って、様々な実験を試みる記述は、馴染みのものだと思います。思考実験は、極限的な状況を想定し、自身が持つ科学の原理を頼りに結果を予測する、科学的思考に関するトレーニングです。何といても、思考実験はただですから、皆さん思考実験で科学者としてステップアップを！！

■ 経済学部経済学科 石川共平先生

キャリア教育のウソ

児美川孝一郎 著／筑摩書房 366.29//Ko64

キャリア教育って何？「やりたいこと探し」「キャリアプラン」重視のキャリア教育を批判し、それぞれのライフキャリアと向き合い、仕事と生活をどう両立させ、どう折り合いを付けていくのかという現実的視点からキャリア教育を考えていることに共感しています。卒業後も「学び習慣」を身につけ、キャリアデザインマインドをもって行動することが大切。



ブラックバイト

大内裕和, 今野晴貴 著／堀之内出版 366.8//091

あなたのバイト、ブラックではありませんか？サービス残業当たり前。シフト変更を申し出ても認めてくれず学業に影響も。休みもとれず、辞めたくても辞めさせてくれない。そんな経験ありませんか？ブラックバイトは社会の縮図。社会に出てブラック企業に潰されないために、今から対処法を身に付けておくためのお助け本です。

■ 経済学部経済学科 江良亮先生

よくわかる 経済数学入門講義 上；静学分析編

門川和男 著／学術研究出版/ブックウェイ 331.19//Ka14//1

数学が苦手な人のための最高の経済数学入門書。この本でしっかり学べば、学部レベルの経済数学は全国有数の実力まで高めることができます。



「イノベーターのジレンマ」の経済学的解明

伊神満 著／日経BP社 336.17//123

新世代の技術競争に関する経済学・経営学における現時点での世界最先端の知見が数学的な前提知識を一切必要せず知ることのできる名著。しかも日本語で読める。

企業競争とは何か？について理解するには2018年時点で最高の日本語文献です。

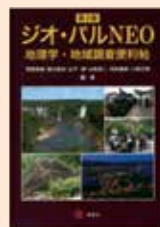


■ 経済学部経済学科 小口千明先生

ジオ・パル NEO : 地理学・地域調査便利帖 第2版

野間晴雄 [ほか] 編著／海青社 290.1//N94

レポートや卒業研究で地域調査をおこなう際にとっても役立つ1冊。どのような資料がどこに所蔵されていて、それをどのように使うと何が解明できるかがわかりやすく説明されている。かなり深い内容が述べられているにもかかわらず、図・写真や実例が多数掲載されているので、楽しく読める点が本書の特色である。



ヒガンバナ探訪録

有菌正一郎 著／あるむ 479.374//A79

ヒガンバナの研究というと植物学を思い浮かべるかも知れないが、この本はヒガンバナと人間との長い歴史的な関わりを解き明かす「社会科」の研究書である。秋に赤い花をつけるあのヒガンバナに「日本人のこんな歴史を読み取ることができるのか!」と、びっくりする学術書である。やさしくわかりやすく書かれていることも本書の特色といえる。



経済学部経済学科 河村徳士先生

読書と社会科学

内田義彦 著／岩波書店 019//U14

読書離れが進んでいると言われてます。そもそも本を書き、それを別の人が読むという人間の営みはどのような意味があるのでしょうか。大学生活はやや無目的に時間をつかえる機会が多く、ちょっと難しい本を手にとるゆとりが持てるのもある意味ではめぐまれたことと思われます。たまには小難しそうな本を読むのも良いでしょう。



仕事と日本人

武田晴人 著／筑摩書房 366.021//Ta59

大学を卒業し、うまくいけば、どこかに就職し働いて歳を重ねのだろうとばくぜんと考えている人も多いと思います。しかし、いざ働くとはどういうことかを考えるきっかけはなかなか得られていないのではないのでしょうか。働く意味はお金をもらうことにしかないのか、労働の喜びはあるのだろうか、ボランティアは働いたことにならないのか、いろいろ考える材料が提示されていると思います。



大学でなにを学ぶか

隅谷三喜男 著／岩波書店 377//Su67

少し古い本ですが、今の大学事情を考えるうえでも重要な論点が指摘されています。大学は就職するためにあるのか、就職のために専門的な技術を学ぶだけしか意味はないのか、主体的に学ぶことに意味があるとすれば、いったい何を勉強したらよいのか。答えがあるわけではありませんが、大学生活を送るうえでも指針になればと思います。



経済学部経済学科 神崎直美先生

小泉今日子書評集

小泉今日子 著／中央公論新社 019.9//Ko38

歌手・女優のキョンキョンが、読売新聞の読書委員を10年担当した折の書評 97 編をまとめた書。それぞれの本、さらには読書の楽しさと魅力が満ち溢れていると共に、書評者が人生にしっかりと向き合い、真摯に生きてきたことが感じられます。

本学の学生さんの中で読書好きの方の多くは「小説が好き」とおっしゃいますので、次に読む本を探す時、この書評集に掲載された本から選んでみてはいかがでしょうか。さらに、「書評とは何か」ということを知り、かつ学ぶ為の好適な本でもあります。

なお、書評者の言葉に共感するものが多々ありました。以下に1つあげておきます。「形のあるものじゃなく、誰かの心の中に、ほんのりと温かい小さな光のような思い出をいくつか残すことが出来たら、自分の生きた人生によやく意味を感じられるような気がした」



14 歳からの哲学：考えるための教科書

池田晶子 著／トランスビュー 104//I32

2003年に刊行された時、日常の言葉でわかりやすく哲学を説明している本として、たいへん話題になりました。それゆえ「14歳からの…」を冠した本が、その後、様々な分野で刊行されるようになりました。「知りたい」と思うこと、そして「考える」ことにより、人生は豊かになります。また、「考える」とは、生きる上での力になります。本書には、家族、社会、理想と現実、友情と愛情、仕事と生活など、大学生の皆さんの日常に直結することもあれば、人生の意味、存在の謎など深遠なテーマもあります。「考える」ことにより、一度きりの人生を充実させましょう。



明治人の力量

佐々木隆 著／講談社 210.08//N71//21

世界を帝国主義の嵐が吹き荒れていた明治時代は、日本が欧米諸国に肩を並べてゆくために、不羈独立した国家を形成すべく、先人たちの壮絶な努力がありました。

その様子を徹底した実証主義で明らかにした著作です。当時の日本が直面していた真の事実を世界の動向と共に知り、皆さんの歴史認識の糧にしてほしいです。



「鎌倉百人一首」を歩く

尾崎左永子 著／原田寛 写真／集英社 911.157//096

古都鎌倉は小さな山々の緑に囲まれ、南には青い海が広がり、自然豊かな美しい土地です。鎌倉は古代から現在に至るまで、多くの人々の歌心を揺さぶり、沢山の短歌が詠まれました。この書は、かつて鎌倉ペンクラブが選んだ「鎌倉百人一首」から、さらに約 50 首を歌人の尾崎氏が選び解説を付し、さらに古都の写真家原田氏が短歌に所縁の芸術的な写真を寄せた書です。



是非、短歌の調べとその背景を楽しみながら、美しい風景写真を眺めて、仮想鎌倉散策をしてみてください。鎌倉在住の 2 人の手によるこの書は、鎌倉の魅力をたっぷり伝えてくれます。さらには、実際にみなさんが鎌倉を訪れるきっかけとなればとてもうれしいです。

なお、鎌倉好きな私にとっては、宝物というべき存在の一書です。

美しく愛（かな）しき日本：歌集

岡野弘彦 著／角川書店 911.168//045

日本人が古代から連綿と継承してきた短歌は、人々の心を紡いだものです。文語短歌ならではの調べの美しさと濃密さを味わいつつ、昭和の戦争と敗戦、および東日本大震災に対する著者の思いに添いながら、学生の皆さんが未来に向けていかに生きてゆくべきか、考えてみるきっかけになることと存じます。



舟を編む

三浦しをん 著／光文社 913.6//Mi67

辞書の編集を軸に 4 人の人物が登場します。辞書の編集に人生をかけた研究者、専門知識を期待されて抜擢された編集者、周囲の人々を気遣う心を持ちながらも辞書作りに情熱を感じられない編集者、花形部署から辞書編集部に異動となり左遷されたように感じている編集者。それぞれが苦悩しながらも、職場における自己の存在意義を見出し、仕事に情熱をそそいでゆく姿が描かれています。社会に出たら苦悩はつきもの。仕事で悩んだ時に思い出していただければ、心の支えになる一書と存じます。



ツバキ文具店

小川糸 著／幻冬舎 913.6//024

主人公は故郷の鎌倉に戻り、家業の文具店兼代書屋を継いだポッポちゃん、こと鳩子さん。新たな出会いを重ねながら、代書を通じて、わだかまりがあった亡き祖母と、心の和解に至る物語です。本書の見どころの1つは、手書きの手紙の表情豊かな筆跡です。さらに、鎌倉の四季の移ろいの中で、日々の生活を丁寧に営む様子も魅力です。祖母のいない世界で「一歩前に踏み出さなくてはいけない」との思いに達し、祖母への手紙をしたためたポッポちゃんは、思いを行動に移し、人生を静かに切り開いていきます。その様子は、是非とも続編の『キラキラ共和国』（幻冬舎）をひもとして、ご確認ください。



カシス川

荻野アンナ 著／文藝春秋 913.6//025

少子高齢化の現在、介護に関する小説やルポルタージュが多々刊行されています。本書は少子高齢化時代の究極な介護——人っ子（しかも闘病中）で3人の身内を看取った著者の体験——を7編からなる小説にまとめたものです。小説ですが、介護者がとまどい、心を痛める被介護者の言葉や行動は、介護の現場での現実そのものです。肉親であるからこそ、言葉に尽くしがたい動揺・傷心・失望・絶望、そしてその繰り返し。壮絶な日々のいくつかの破片を、著者は小説というオブラートに包んで文学に昇華させました。同じ体験をした（している）読者には、共感、受容を持って心の救いになります。この小説は理解がむずかしいところもあるかもしれませんが、将来、介護に直面した時、きっと納得できるでしょう。その時にこの本を思い出してひもてください。きっと、救いの小船が見えると存じます。



太郎物語；大学編

曾野綾子 著／新潮社 913.6//So44

長いようであっという間の大学生活。実り豊かな日々となるか否かは、皆さん次第です。主人公の太郎君は一年生。学び、遊び、考え、時には悩みながら、生き生きと日々を過ごしています。皆さんはどのような毎日を過ごしていますか。同世代の太郎君の日常だからこそ、大学生活をいかに過ごすべきかの示唆が得られる一書と思います。

みをつくし料理帖 全10巻／みをつくし献立帖

高田郁 著／角川春樹事務所 913.6//Ta28

幼い頃に故郷の大坂で水害により両親を亡くした主人公の漣が、江戸で料理の道に奮闘する姿を描いた歴史小説です。努力を尽くすにもかかわらず、繰り返しかえし遭遇する理不尽に苦しみ絶望に陥りながらも、自分が選んだ料理の道に突き進んでいく様子は、清しく実に天晴れです。漣が考案した料理はとてもおいしそう。食いしん坊な方、読み味わってみてください。この本と出会った契機は、2014 年末に大学時代のサークルの仲間と会食した際に読書談義が盛り上がり、私がきつと好きそうな本として先輩がお勧めくださいました。読み始めると魅了されて全 10 冊を一気に読了しました。お仲間での読書談義も良書に出会える良い機会ですので、併せてお勧めいたします。



窓ぎわのトットちゃん

黒柳徹子 著／講談社 916//Ku78

初めてこの著作を読んだのは、初版刊行直後で高校生の頃でした。いわさきちひろさんの手によるかわいらしい少女が描かれた表紙をひらき、読み進めると天真爛漫な主人公トットちゃんに魅了されました。次にこの書物をひもといたのは大学時代。教員を目指し教職科目を履修していた日々でした。本書に出てくる校長先生の包み込むような優しさ、一人一人の生徒の個性を見つめ、大切に伸ばしてゆく教育に、教育者および教育の場としての理想の姿を見出し、感銘をうけました。3回目にこの著作を手にしたのは今年(平成29年)の春、書店で文庫版を見て、懐かしく思いました。久々に読んだ本書は、戦争の空襲によるトモ工学園の焼失、それに伴うトットちゃんの幸せな学園生活の終焉に一入心を痛め、静かな反戦小説と感じました。1 度読んだ本でも、後に読み直すと、その折々で心に響く事項が変わります。読み手の年齢・立場、さらには読み手を取り巻く環境・世相により、1 冊の本は様々に語りかけてくれます。そして、隣国のミサイル発射の報道を頻繁に耳にするこの頃、戦争は絶対悪であることと、平和の尊さを改めて心に留めていただきたく、本書をお勧めいたします。



■ 経済学部経済学科 勝浦信幸先生

20歳のときに知っておきたかったこと

ティナ・シーリグ 著／高遠裕子 訳／阪急コミュニケーションズ

159//Se15

本書は、スタンフォード大学での起業家育成のための講義をまとめたものですが、自分の脳を開放して、発見力、発想力、創造力を高めるヒント、そして人生を面白くするヒントがたくさん詰まっています。

内容もわかりやすくでどんどん読み進めます。

もしかしたら、学生の皆さんの人生を変えるかもしれません。ぜひ、読んでみてください。

プロフェッショナルの条件：いかに成果をあげ、成長するか

P.F.ドラッカー 著／上田惇生 編訳／ダイヤモンド社 159.4//D92

本書は、ドラッカーの著書 10 点と論文 1 点から、そのエッセンスを抜き出し編集したものです。「はじめて読むドラッカー」との副題がついているとおり、とてもわかりやすく、よくまとめられています。

ドラッカーは、まずこの一冊から！



無名戦士たちの行政改革：WHY NOTの風

WHY NOT メンバー 著／澤昭裕 編／関西学院大学出版会

318//W69

本書は、自治体の長をはじめとした行政内部からの改革はもとより、市民からの行政改革、メディアからの行政改革の実践についても、それぞれの立場から書かれています。

公務員を目指す学生だけでなく、将来、地域の一市民となる学生にも、ぜひ一読をお勧めします。

監修は、NEWS ZERO のメインキャスター村尾さんです。

ちなみに、私も 3 章を書かせていただいています。



父が息子に語るマクロ経済学

齊藤誠 著／勁草書房 331//Sa25

本書は、最初から最後まで、父と息子の対話形式で書かれています。とても読みやすいと思います。

ただ、書かれている内容は、次第に高度になっていきます。少し難しい数式なども登場しますが、「難しいな」と思ったら、そこは読み飛ばしてもいいと思います。

里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く

藻谷浩介,NHK 広島取材班 著／角川書店

332.107//Mo82

本書は、「デフレの正体」に続く、藻谷さんの第2のベストセラーとなる本です。マネー資本主義、アメリカ型資本主義から脱却し、真に豊かな生活を送るためにはどうすればいいのかを示唆してくれます。

とても読みやすいのでお勧めです。



私たちはどうつながっているのか

： ネットワークの科学を応用する

増田直紀 著／中央公論新社 361.3//Ma66

人は一人では生きていけません。家族、友人だけでなく、好むと好まざるとにかかわらず、社会に出れば多くの人たちとのつながりが生まれます。

本書は、人と人とのつながりをネットワーク論によって分析し、日常生活への応用について書かれています。



地方経済を救うエコノミックガーデニング

： 地域主体のビジネス環境整備手法

： guide book for economic gardeners

山本尚史 著／新建新聞社 601//Y31

本書は、持続的な地域経済発展のヒントが書かれています。

オレゴン州ビーバートン市の具体的な取組事例の紹介や、日本の地方自治体で実践する場合の課題などが、まとめられています。



■ 経済学部経済学科 小林孝雄先生

市民科学者として生きる

高木仁三郎 著／岩波書店 289.1//Ta29

大学や政府系の研究機関、あるいは原子力利用を推し進める側の企業と対峙する立場から、原発や放射性物質の危険性を世界に訴え続けた核化学者の、自伝的な著作です。将来を嘱望されながら、あえて体制側を飛び出して、市民科学者としての立場を貫いた生き方に、感銘を受けます。



有害化学物質の話：農薬からプラスチックまで

井田徹治 著／PHP 研究所 498.4//I18

共同通信社の記者として、世界の各地を取材して回った著者は、現在世界中で起こっている様々な環境問題を広くかつ深く掘り下げ、丁寧な取材を重ね、読者にわかりやすい表現で伝えてくれます。その中の一冊で、2013年に公刊された本です。



地球環境報告 1,2

石弘之 著／岩波書店 519//I71//1,2

ジャーナリストとして世界の各国、各地域の環境の変化を見てきた著者が、地球上の環境変化に起因する様々な問題を、幅広い視点からわかりやすく解説した本です。

■ 経済学部経済学科 小山真理子先生

ミライの授業

瀧本哲史 著／講談社 159.7//Ta73

学校は未来と希望の工場である。そして君たちは魔法を学んでいる。著者が全国の学校を訪れて開講した特別講義「未来を作る5つの法則」のエッセンスをぎゅっと凝縮。中学生向けと侮るなかれ、大人が読んでも目から鱗！偉人達の生き様に感動の一冊です。



ゼロから始める都市型狩猟採集生活

坂口恭平 著／太田出版 368.2//Sa28

〈都市の幸〉で暮らす一。『0円ハウス』『隅田川のエジソン』で話題の、自称『建てない建築家』坂口氏による、目からウロコの都市生活方法論！高い解析度を持った目で都市生活を見つめ直すことで、自分の何気ない日常を改めて振り返ることができるでしょう。



名画の謎；ギリシャ神話篇, 旧約・新約聖書篇, 陰謀の歴史篇, 対決篇

中野京子 著／文藝春秋 723//N39

西洋絵画を見ても、キリスト教やギリシャ神話などに関する知識がないので、何の場面が描かれているのかさっぱりわからない。そんな貴方の頼もしい指南役となる本シリーズ。とにかくわかりやすくて滅法面白い。これを読んでぜひ美術館に足を運んでください。



語彙力こそが教養である

齋藤孝 著／KADOKAWA 814//Sa25

「言葉は身の丈」。語彙力が豊かになれば、周りから一目置かれる存在になるだけではなく、見える世界も変わります！古今の名著はもちろん、テレビやネット、SNSなどを駆使した語彙力アップトレーニングが、今すぐできる指南書です。



一路上・下

浅田次郎 著／中央公論新社 913.6//A81//1,2

時は幕末、19歳の小野寺一路は、父の突然の死により家督を継いで、江戸への参勤交代を差配することになる一。笑って泣ける道行をとともに旅しながら、豊かな日本語の美しさに酔いしれてください。山口晃画伯の表紙絵も必見！



最悪の將軍

朝井まかて 著／集英社 913.6//A83

江戸の昔も、政治は「忖度」で歪められていた??生類憐みの令で知られる江戸幕府の五代將軍・徳川綱吉の、知られざる劇的な生涯を描いた傑作長編。現代の私たちが動物を愛する心を持ち、ペットと幸せに暮らせるのは、実は彼のおかげかもしれません。



青が散る

宮本輝 著／文藝春秋 913.6//Mi77

新設大学のテニス部員たちを主人公とした、「定番中の定番」ともいえる青春小説。若さの持つ喜びや悲しみ、輝きや苦渋などが、今まさに学生生活を謳歌する皆さんの胸にストレートに響くと思います。大学時代の今読まなくていつ読むの?という一冊です！

また、桜の国で

須賀しのぶ 著／祥伝社 913.6//Su21

第二次世界大戦が勃発しナチス・ドイツに蹂躪される欧州を舞台に、ショパンの名曲『革命のエチュード』が繋ぐ日本とポーランドの知られざる歴史秘話。本学にも毎年交換留学生在が訪れている「ポーランド」という国の深い魅力に、ぜひ触れてみてください。



経済学部経済学科 清水昭男先生

天才！：成功する人々の法則

マルコム・グラッドウェル 著／勝間和代 訳／講談社 159//G48

「天才＝成功者は状況の産物である」という主旨の本で、いわゆる「How to」ものではありません。「個人の努力・才能」という変数をゼロとして天才という方程式を解くところなる、、、作者の頑なな理論展開が本当に楽しい一冊です。



フラット化する世界：経済の大転換と人間の未来 上・下

トーマス・フリードマン 著／日本経済新聞出版社 361.5//F47//1,2

経済格差を前提としたグローバル化ではなく、標準化が前提となってくる 21 世紀的なグローバル化を観察／展望した一冊です。2004 年までの「世界同時経済成長」を背景に書かれていますが、ここで示されている方向感把握しておきたいですね。



フリー：「無料」からお金を生み出す新戦略

クリス・アンダーソン 著／日本放送出版協会 675//A46

裾厚(Fat Tail)の時代のマーケティング戦略をセンセーショナルなタッチと実例でまとめ、富を生み出す背景変化を解説した一冊です。発売と同時(米国 2009 年)に、ビジネス界では Must Read として意識され、一般図書としても Best Seller となりました。

**マンガ学：マンガによるマンガのためのマンガ理論**

スコット・マクラウド 著／海法紀光 訳／美術出版社

726.101//Ma13

マンガと Comics は必ずしも同じではないので、訳書のタイトルは不正確だと思いますが、連続するコマ(絵)を読者のイマジネーションに依存してつなげていくことによって、最終的にストーリーを紡ぎ出そうとする点で、両者は同じです。連続する不安定な飛び石を渡った読者が、最終的に一様な印象を得るとこのアートフォームには、メッセージを正確に／効果的に届けるための「お約束(理論)」が存在します。

**経済学部経済学科 場勝義雄先生****「ココロ」の経済学：行動経済学から読み解く人間のふしぎ**

依田高典 著／筑摩書房 331//I18

人間の行動は矛盾に満ちている。ときには理性的に、利己的にふるまう一方で、ときには感情的に、利他的にふるまう。本書は、ココロの深奥に迫ろうとする経済学の新しい潮流を一望し、心理学、脳科学などの知見を援用しながら、謎に満ちた人間の不思議を解明しようとしたものです。一読を薦めます。



しくみがわかる／ニュースがわかる

(池上彰のやさしい経済学 1,2)

池上彰 著／テレビ東京報道局 編／日本経済新聞社

331//I33//1,2

著者がかつて京都の芸術系大学で行った集中講義「経済学」(14 回シリーズ)がもとになっている(TV 番組でも放映されました)。その内容は「金は天下の回り物」にはじまり、経済学の祖と言われるアダム・スミスやケインズの考え方などの紹介、「政府か日銀か」と題する財政政策や金融政策のこと、円高と産業空洞化、年金や消費税の問題、リーマンショック、戦後日本経済史などわかりやすく解説していますので気軽に読める本だと思います。(1,2 年生向け)



経済は感情で動く : はじめての行動経済学

マッテオ・モッテルリーニ 著／泉典子 訳／紀伊國屋書店

331//Mo95

経済学に心理学を融合したことで 2002 年ノーベル経済学賞を受賞したのはダニエル・カーネマンでありその後「行動経済学」として知られるようになった。この書を読めば、経済学って、こんなに人間的で面白い学問だったのか。経済の主体であるところの人間の行動、その判断と選択に心理学の視点から光を当てる。そこに見えてきたのは、合理性とは似つかない「人間的な、あまりに人間的な」一面。クイズ形式で楽しい本です。(2,3 年生向き)



「原因と結果」の経済学：データから真実を見抜く思考法

中室牧子,津川友介 著／ダイヤモンド社 331.19//N37

2つのことがらが本当に「原因と結果」の関係にあるのかどうか、単なる「相関関係」にすぎないのかを正しく見抜けるようになり、身の回りにあふれる「もっともらしいが本当は間違っている根拠のない通説」に騙されなくなる。この「因果推論」の考え方を、数式などを一切わずに徹底的にやさしく解説した本で、一読を薦めます。



アメリカは日本経済の復活を知っている

浜田宏一 著／講談社 332.107//H22

東京大学での教え子、元日本銀行総裁・白川方明への糾弾の書でもある。20年もの間デフレに苦しむ日本の不況は、ほぼすべてが日銀の金融政策に由来すると著者は述べる。アダム・スミス以来、200年間経済界の泰斗たちが営々と築き上げてきた理論を無視するものであるという。ここで解説する理論は、著者一人だけが主張するものではなく、ほとんど世界中の経済学者が納得して信じ、アメリカ、そして世界中の中央銀行が実際に実行しているものであるという事が分かるのではないだろうか。(3,4年生向き)



現代政策学部社会経済システム学科 飯塚智規先生

来るべき民主主義：小平市都道328号線と近代政治哲学の諸問題

國分功一郎 著／幻冬舎 318.8365//Ko45

議会制民主主義には、行政権に係わる仕組みがない!本書は、筆者が係わった地元の住民活動や道路問題を通して、民主主義と行政の仕組みの今日的問題を明らかにしている。

震災復興における被災地のガバナンス

：被災自治体の復興課題と取り組み

飯塚智規 著／芦書房 369.31//I28

震災からの復興のためには、地元行政や被災者、ボランティアやNPO、国や近隣自治体などの様々なステークホルダーが政策に係わる必要がある。本書から彼らの様々な活動を理解してもらいたい。



大学生のためのレポート・論文術

小笠原喜康 著／講談社 816.5//O22

大学生、そして社会人のにとって必須の能力の一つとして、文書作成がある。本書はレポート論文を書くための、お作法から始まり、執筆手順や資料収集方法も網羅されている。



現代政策学部社会経済システム学科 市川直子先生

The constitution of Japan : a contextual analysis

Shigenori Matsui/Hart Pub 323.14//Ma77

英語を母語とする学生や留学を希望する学生には特にお勧めです。同著者の『日本国憲法』と合わせて読むと、理解が一層深まるでしょう。

*「日本国憲法」松井茂記者 第3版 有斐閣

, 2007.12 323.14//Ma77 (3階シラバスルーム)

裁判百年史ものがたり

夏樹静子 著／文藝春秋 327.02//N58

推理小説家が目をつけた「事実の面白さ、裁判の深さ」を実感しながら、明治以降の著名な事件・裁判を読み進めていくことができます。



現代政策学部社会経済システム学科 大藺陽子先生

生きていくあなたへ：105歳どうしても遺したかった言葉

日野原重明 著／幻冬舎 159//H61

聖路加国際病院の医師であった 105 歳の著者が、目をつむり、混濁する意識の中で、私たちに語られた 19 ページの最後のメッセージ(2017年1月31日)が収録されています。生きていく私たちへの温かいメッセージが何度読んでも心に響き、涙ぐんでしまいます。山中伸弥氏(2012年ノーベル生理学・医学賞)もこの本を薦めておられます。



成功する人は偶然を味方にする：運と成功の経済学

ロバート・H.フランク 著／月沢李歌子 訳／日本経済新聞出版社

331.04//F44

2018年1月の図書館報(vol.108)のBookMarkで私が紹介した本です。コーネル大学ジョンソンスクール経済学教授の著者は、「ささいな偶然が人生を変える」、「才能があっても努力しても、運なしでは勝てない」と述べています。偶然や運、社会全体の幸運度を上げることについて興味深い考察がなされており、人生を紡いでいく際のヒントがたくさんつまっています。



人生がときめく片づけの魔法

近藤麻理恵 著／サンマーク出版 597.5//Ko73//1、2

著者の教えに従い、引っ越しの際、新しい部屋の1か所に全部の荷物を並べ、ときめくか、ときめかないかをひとつ、ひとつ手に取って判断しました。ときめくものだけを残して、物を収納したところ、きれいに片づけ、リバウンドもしていません。片づけにとどまらない人生の魔法として、40カ国以上で翻訳され、シリーズ累計800万部突破の大ヒットのようです(2017年12月時点)。



現代政策学部社会経済システム学科 土屋正臣先生

監獄の誕生：監視と処罰

ミシェル・フーコー 著／田村俣 訳／新潮社 326//F42

パンプティコンとは円形監獄である。この監獄では、「見られてはいなくても、こちらには見えない」、「収監されている人は、常に自分が監視されていると自覚することで、自発的に自己を統制するようになる」という特徴があり、病院における患者、学校における児童・生徒、職場における労働者にも当てはまる。近代システムを考える上で示唆に富む名著である。



状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加

ジーン・レイヴ, エティエンヌ・ウエンガー 著／佐伯胖 訳／産業図書
141.33//L38

学習とは個人で完結しない。筆者らは仕立屋や操舵手、産婆などの5つの徒弟制度を分析し、学習とは共同体への参加過程であり、初めは周辺のだが、段階的に関りを深め、複雑さを増してくるものだとした。実践的な場に参加する学びは、大学での学びそのものである。なぜ大学生はレポートを書き、発表しなければならないのか、その答えの一つがここにある。



現代政策学部社会経済システム学科 松野民雄先生

科学研究とデータのからくり：日本は不正が多すぎる！

谷岡一郎 著／PHP 研究所 407//Ta88

研究者の過失・不正をレベル1からレベル5までの5段階に分けて検討している。レベル1は単なるミスで、訂正すれば済むレベルだが、レベルが上がるにつれて悪質性が強くなり、レベル5になると犯罪行為であるとする。

本書は、非常に分かり易く書かれており、読み易い本である。新書本であるので、通学途中の電車の中でも気軽に読むことができる。是非とも読んでもらいたい一冊である。



現代政策学部社会経済システム学科 真殿仁美先生

あなたのその苦しみには意味がある

諸富祥彦 著／日本経済新聞出版社 146.8//Mo77

誰も苦しみを経験していますね。その経験している苦しみには意味がある、と著者は本書の中で述べています。人はさまざまな苦しみを通して、自己変容の道へと歩み出していくそうです。本書から苦しみの意味を悟ってください。



「昔はよかった」と言うけれど

：戦前のマナー・モラルから考える

大倉幸宏 著／新評論 150.21//057

時代をさかのぼって、戦前のモラルやマナーについて知りたい人はぜひ、読んでください。一読の価値あります。

世界名言集

岩波文庫編集部 編／岩波書店 159.8//I95

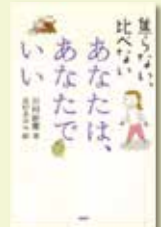
言葉の持つ深さを味わうことができる書籍です。この名言集を通して、多くの言葉に出会ってください。



あなたは、あなたでいい：焦らない、比べない

川村妙慶 著／高村あゆみ 絵／PHP 研究所 188.74//Ka95

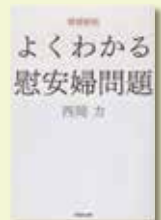
辛いとき、しんどいとき、または心のバランスを崩しそうになったとき、本書を手にとり読んでみてください。



よくわかる慰安婦問題

西岡力 著／草思社 210.75//N86

きわめて丁寧に検証し、知らなかった事実を発信している書籍です。ぜひ読んでみてください。



ホセ・ムヒカ：世界でいちばん貧しい大統領

アンドレス・ダンサ,エルネスト・トゥルボヴィッツ 著／大橋美帆 訳
／KADOKAWA 289.3//D39

本書は、2012年にリオデジャネイロで開かれた「持続可能な開発会議」でスピーチをし、一躍有名になった第40代ウルグアイ大統領ホセ・ムヒカ氏の軌跡について記されています。本書を通して、リアリズムを追求した氏の生き方に触れてみませんか。



中国 4.0：暴発する中華帝国

エドワード・ルトワック 著／奥山真司 訳／文藝春秋 319.22//L97

本書では「新型大国関係」(G2)は、誰が考えたのか、なぜ、アメリカはG2を受け入れなかったのか、について興味深い分析が示されています。中国の次の戦略を読み解くうえで、また、私たちが「戦略の論理」を突き詰めて考えるうえで、本書は重要な役割を果たしてくれるでしょう。



世界はなぜ社会保障制度を創ったのか：主要9カ国の比較研究

田多英範 著／ミネルヴァ書房 364.02//Ta16

「社会保障制度とは何か」という根本的な課題を解き明かしたくなったらぜひ、この書籍を読んでください。



親を、どうする？

小林裕美子 著／実業之日本社 367.7//Ko12

この先、親や兄弟姉妹との関係について、考えたことはありますか？この書籍は、これから誰もが経験することをイラストで紹介しています。



シニアが輝く日本の未来

三菱総合研究所 編著／丸善プラネット 367.7//Mi63

本書には「プラチナ社会」を構築していくためのヒントがたくさん示されています。なかでも、マズローの欲求5段階説を超高齢社会の文脈にあてはめてとらえなおしている点が興味深いです。この本を読んでも一緒に「プラチナ社会」について考えていきましょう。図表や写真がふんだんに盛り込まれ、読みやすい書籍ですよ。『Phronesis』シリーズは、他にも多数刊行されています。



2030年超高齢未来 破綻を防ぐ10のプラン

東大ジェロントロジーコンソーシアム 著／東洋経済新報社

367.7//To46

超高齢社会をどのように受けとめ、考えるべきかを指し示す良書です。読後は“高齢”の概念ががらりとかわるでしょう。



街場の教育論

内田樹 著／ミシマ社 370.4//U14

現代社会において「教養」とは一体、何を意味しているのでしょうか。また「専門」や「専門家」という言葉は、どのように解釈すればよいのでしょうか。本書はこれらの言葉について、丁寧に解説しています。ぜひ読んでみてください。著者による『街場』シリーズはこの『教育論』以外にも、『中国論』や『アメリカ論』などもあります。



経済学部タチバナキ教授が見た

ニッポンの大学教授と大学生

橋木俊詔 著／東洋経済新報社 377.1//Ta13

帯の表現が強烈だったので、手に取ってみました。著者は本書の中で「大学」という知の拠点を、批判的に検証しています。厳しい言葉が並んでいますが、大学がいま、どのような状況に置かれているのかを知るには、興味深い書籍です。



知のバリアフリー：「障害」で学びを拓ける

嶺重慎, 広瀬浩二郎 編／京都大学学術出版会 378//Mi43

本書は、大学が「障害」や「障害学生」とどのように向き合っていくのか、について考えさせてくれます。「支援を乗り越えて、知のバリアフリーを目指す」とは一体、何を意味しているのでしょうか。本書から「「障害」で学びを拓ける」(副題)機会につなげていってください。



化粧の日本史：美意識の移りかわり

山村博美 著／吉川弘文館 383.5//Y32

「化粧」って何のことでしょうか？この書籍では、古代から現代までの「化粧」の変遷を詳しく解き明かしています。「化粧」について知りたい人におすすめの一冊です。



熊：人類との「共存」の歴史

ベルント・ブルンナー 著／伊達淳 訳／白水社

489.57//B78

最近、熊の目撃が相次いでいる、と報道されていますね。そもそも、熊はどのような生き物なのでしょう。本書は、熊と人間の歴史を振り返りながら、両者の関係や共通点などを丁寧にひも解いています。ぜひ、本書から熊と人間の関係について学んでみてください。



パンダが来た道：人と歩んだ150年

ヘンリー・ニコルズ 著／池村千秋 訳／白水社 489.57//N71

2017年6月12日、上野動物園でパンダが誕生しました。パンダの誕生は人々に大きな喜びをもたらしました。パンダの誕生による経済効果は200億以上との試算も出されています。人はなぜこれほどまで、パンダに魅せられるのでしょうか。本書を通じて、パンダの不思議を解明してみませんか？



認知症カフェ読本：知りたいことがわかるQ&Aと実践事例

矢吹知之 著／中央法規出版 493.758//Y12

住まいの近くにある認知症カフェ(おれんじカフェ)、に行ったことはありますか？おれんじカフェは、地域に暮らす誰もが参加することができます。そのおれんじカフェについて詳しく知りたい人はぜひ、この書籍を読んでみてください。



じつはもっと怖い外食

：外食・中食産業の最前線で聞いた「危険」すぎる話

南清貴 著／ワニ・プラス 498.54//Mi37

“安いものばかりを追い求める消費の形態が、じつは大事なものを失っていくことに加担しているのではないか…(略)…この構造を変えない限り、私たちは本当の幸せをつかむことはできない…”(本書116頁)。読後、著者のこの言葉が印象に残りました。目の前の食べ物を口にに入れる前に、本書を読んで「食」について真剣に考えてみませんか。



現代政策学部社会経済システム学科 持丸邦子先生

マルコポーロ東方見聞録

月村辰雄,久保田勝一 訳／岩波書店 292.09//P77

有名な書物を実際にも読むことは案外ないと思いますが、読んでみると、たくさんの面白い発見があります。日本には来たことがなかったけれど、日本を“ジパング”として紹介している箇所、また、たくさんの中国の地名が出てきて、現在の姿と比べると面白いです。食習慣、偶像崇拜の有無に関心が深かったことも読み取れます。



「悪意の情報」を見破る方法

：ニセ科学、デタラメな統計結果、間違った学説に振り回されないためのリテラシー講座
 シェリー・シーサラー 著／今西康子 訳／飛鳥新社 404//Se15

著者はカリフォルニア大学サンディエゴ校で科学の研究成果を一般人に説明する手法を科学の専門家に教えています。日本語訳の発行は2012年8月。ちょうど原発事故によって科学に対する正しい見方を求めている時に発行されました。その後、STAP論文や薬の臨床実験で不正が明らかになり、ますます、科学への正しい見方が問われる時代に読んでおく役に立つ本です。



検証!福島原発事故の真実 (プロメテウスの罠 2)

朝日新聞特別報道部 著／学研パブリッシング 543.5//A82//2

東日本大震災から3年が過ぎましたが、被災地の復興は地域によって、その進度に格差があり、復興の進んでいる所の報道にばかり触れると実感が伝わらなくなってしまいます。特に原発事故については、事実上、事故は収束していないのにも関わらず、真相が見えません。この本は、朝日新聞での連載記事を最初から編集少し加筆したものを順次、単行本にまとめていっているもので現在も新聞の連載は続いています。過去の真相から直近の状況までをまとめて知ることができます。



現代政策学部社会経済システム学科 柳澤智美先生

政策学入門 : 私たちの政策を考える

真山達志ほか 著／法律文化社 301//N72

今年、教科書にしようと考えたが値段が少し高く、学生に買わせるには厳しいかと思い見送りましたが、内容もわかりやすくまとまり、読むたびに新しいことを考えさせられる本です。



楊家将 上・下

北方謙三 著／PHP 研究所 913.6//Ki65//1,2

この本を読むと本当に楊業という1人の生き方がステキで史実とはかなり違って素晴らしいとしか言えませんでした。あこがれてしまいます。こんな生き方が出来たらと考えてしまいます。



インフェルノ 上・下

ダン・ブラウン 著／KADOKAWA 933.7//B77//1,2

ストーリーも楽しいのですが、何よりも、人口問題はこんなにも人の心を悩ますのかと考えさせられました。人の選択や善意の否定の難しさを知ることが出来ます。



■ 経営学部マネジメント総合学科 田部溪哉先生

転換期を生きるきみたちへ

： 中高生に伝えておきたいたいせつなこと

内田樹 編／岡田憲治[ほか] 著／晶文社 304//U14

人口が減っていく社会は、今生きている人々が体験したことのない、未知のものです。これから先を生きていかなければならない君たちが知っておかなければならないことを、11人の著者たちが解説しています。



レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド

： 大学生・大学院生のための自己点検法 29

佐渡島紗織, 坂本麻裕子, 大野真澄 編著／大修館書店

816.5//Sa13

大学ではレポートの作成を求められる機会がたくさんあります。うまく仕上げるためのコツの一つは、一度書いた文章を見直して、修正することです。この本には、一度書いたレポートをどのように見直せばよいかについて、ポイントがまとめられています。



先生はえらい

内田樹 著／筑摩書房 370.4//U14

先生である私からお薦めしにくいタイトルですが…。みなさんは今「学ぶ」という行為と関わることを避けられません。ここで、「学んで得られるもの」と「それを得るための対価」を天秤に掛けて、勉強するかどうかを決めていますか。この考え方が正しいと思った人に、この本を読むことをお勧めします。



絵本アイビー図鑑

穂積和夫 著／万来舎 589.2//H97

「ファッションにルールはない」。その是非はさておき、歴史はあります。1960年代の日本では、若者の間でアイビースタイルが活況だったそうです。この本は、彼らの着こなしをイラストとともに解説しています。ここで紹介されている格好の大学生はもういないかもしれませんが、品の良い服装、着合わせの基本を理解できます。



■ 経営学部マネジメント総合学科 千葉佳裕先生

ゾーンの入り方

室伏広治 著／集英社 780.7//Mu72

「周りの人間が止まって見える」「ボールが止まって見える」このような極限の集中状態を「ゾーン」と言います。一流のスポーツ選手は意識的にこの「ゾーン」に入ることができると言われています。この本はアテネオリンピックハンマー投で金メダルに輝いた室伏広治選手のゾーンの入り方について書かれた著書です。アスリートなら必ず手にとりましょう。



■ 理学部数学科 神島芳宣先生

朝2時起きで、なんでもできる!

: Trust your intuitive heart 1,2,3

枝廣淳子 著／サンマーク出版 159//E21//、2,3

若者は朝が苦手という傾向にもかかわらず、城西大の学生は意外と朝早く、勤勉である。この本をみて、朝早く(から)何を順序立て日々の生活のバイオリズムを作るか役立つかもしれない。学生の一部は通学に時間がかかる、実際2時から起きて予習復習をすることは若い時なら可能だろう。ただ数学のようにいつ結論、結果が出るかわからない学問では短期間での予定は立たず、この本のやり方は利用出来ないが、自分の専門に多くの時間を割くために他のことをどのようにうまく調整すればよいか参考になる。



ナツコ : 沖縄密貿易の女王

奥野修司 著／文藝春秋 289.1//056

終戦直後の沖縄と沖縄の人は日本全体もそうであったように想像を絶する苦難に見舞われていた。どうやって食料を得、生き延びたか戦争の経験のない自分には想像もつかない。しかし、どんな時も必ず苦境を克服してくれる英雄がいた。いや沖縄だけ？に、女傑がいた。よく考えると沖縄の島々(糸満、与那国)からは台湾、香港、フィリピンの東南アジアのほうが東京、大阪より近い。ナツコさんは優しさで“したたかさ”をもって、戦後の5年間沖縄の生活を守った。

**つきあい方の科学 : バクテリアから国際関係まで**

(Minerva21 世紀ライブラリー 45)

R. アクセルロッド 著／松田裕之訳／ミネルヴァ書房 361.4//A97

コンピュータ シミュレーション技法(ゲーム理論)で社会の秩序をどう考えるかの本。色々な権謀術を科学的に分析することを目的とする。伝統的な手口が理論的に科学用語で解釈されると個々のケースがモデルとして定式化され、それと違うことを行うことは例外とみなされる。少数派は例外グループに配属され、差別を受けるがだんだん増えてくると市民権を得て、新たにモデルとして意味を持つ。しかしこのような方法論はその後引き継がれ、社会学での研究の一つの方向性を提供した。

**社会的ジレンマのしくみ : 「自分1人ぐらの心理」の招くもの**

(セレクション社会心理学 15)

山岸俊男 著／サイエンス社 361.4//Y23

個人主義と自分勝手、相手に迷惑をかける、相手から被害を受けるのは自分が社会の一員である限りやむを得ない。社会で共存するためには、また心地よく生きるには、最小限の迷惑で、どう対処すべきか考える。沖縄の基地問題、福島原発、地域紛争、環境問題、人口増加・減少問題、一部の人たちがそれらを先延ばして現実に向き合わない社会は破滅に向かうのか今や地球単位でのジレンマに陥っている。なんでも他人事にするこの社会をどうするか、読んで政治に関心を持ってほしい。

サンダカン八番娼館：底辺女性史序章

山崎朋子 著／筑摩書房 367.21//Y48

学生の頃この作品の映画を見て、それから約 20 年経って熊本に住んでいた時初めて天草に行き、“からゆき”と呼ばれたおサキさんがここで人目を避けながら最後を遂げた場所かと思うと、申し訳ない悲しい気持ちしか残らなかった。従軍慰安婦問題は国際的に根深く、焦点となつてはいるが、特に自国の兵隊のために、海外で娼婦となった人たちの真実はこのような小説の記録がなければ永久に闇のままだろう。戦争犠牲者は生きて帰ってきても安らぎの場所はない。

サンダカンの墓

山崎朋子 著／文藝春秋 368.4//Y48

サンダカン八番娼館が映画になった時、ターキー（水の江瀧子）がボルネオのサンダカン町の娼館の女将の役をやっていた。確かに日本に戻らなかった彼女たち戦争の犠牲者の墓は「日本に背を向けて建てよ」という女将の回想シーンがあった。この本をみても、なぜそうしたのか自分にはわからない。日本に戻った娼婦の多くはおサキさんのような境遇であった。当時九州の農村部（特に天草、島原）の若い女性は口減らしのため、東南アジアに売られ、決して報われることのない犠牲を強いられた。なぜ戦争をしなければいけないのだろうか。

忘れられた日本人

宮本常一 著／岩波書店 382.1//Mi77

日本人のいいところ、それらがだんだん忘れられ、かつての日本社会は空きマンションのように地方から空洞化している。洗練された日本、落ちたリンゴは売り物にはならない。日本製をどれだけ持っているか今や世界のステイタスかもしれない。この本は日本近代民俗学、本当の裏話であり、かつて全国各地でたくましく生きた人々の生活を思い、回顧するのもよいし、あるいは今からもう一度日本人再生を考えるための指針にもなる。



統計でウソをつく法：数式を使わない統計学入門

ダレル・ハフ 著／高木秀玄 訳／講談社 408//B59//120

最近のコマーシャルには、製品に効果があることを数人の人たちを登場させて、様々な成功例と思われる美談を聞き出し、その製品の購入を勧めるものがある。この本によれば、特定の5人による結果と不特定の1000人のサンプリングによる結果も同じになる統計学の技があることを、様々な例から導いてくれる。もちろん、売り手側も反例があるのを知っているのでこの統計的証明には間違いがあるということを画面の隅に小さく「使用効果には個人差があります」と説明している。この本が書かれてから50年以上たっても、真実を伝えているのは統計学がウソをつかないことを示しています。



Mathematicians under the Nazis

Sanford L. Segal／Princeton University Press 410//Se16

ヒトラーのナチ政権のもと、科学者の生活はどうだったのだろうか。そもそも数学は世の中の生活とは無縁の代物だから、戦時下何も影響はないだろうと思うかもしれない。

ヒトラーとナチのゲシュタポ精鋭たちにとって数学などは眼中にもなかったのだろう。しかし、第2次世界大戦はすでに情報戦争の始まりだった。ナチスが次にどこを攻めるか前もってわかっていたら、連合国の犠牲は最少で、逆に(顕著な例として)戦艦大和の最後のように、奇襲はいとも簡単に相手国に致命的な損害を与えることができる。連合国は果たして数学を最大限利用し、暗号解読を行い勝利に導いた。

Mathematicians fleeing from Nazi Germany

: individual fates and global impact

Reinhard Siegmund-Schultze / Princeton University Press

410.28//Si2

ナチの台頭につれてヨーロッパの科学者は戦争を避けるべく主として米国に避難あるいは亡命した。ドイツの数学者に関していえば、ナチであった数学者はドイツ国内に残り、多数のユダヤ系数学者はドイツを離れた。ヨーロッパはそれまで明らかに数学の中心であったのが、2回の大戦を経て米国があつという間に数学の中心になってしまった。その受け入れの理由は単に米国人のヒューマニズム(おおらかさ)だけではない。巧みに能力・技術を彼らから獲得、将来の核戦争の盤石な基盤をつくることまで考えていたに違いない。1990年後半では、ソビエトの崩壊とそれに伴うペレストロイカで沢山の優秀、あるいはそうでもない数学者はヨーロッパ、米国に拡散した。ナチに抵抗する数学者の当時の気持ちを戦争・弾圧という環境を通してみることは興味がある。意外と、イデオロギーを駆使することなく殺戮は嫌で、平凡を好み米国なら数学に没頭できるという単純な動機で移った数学者は結構いるのではないだろうか。

幾何学基礎論

D. ヒルベルト 著 / 中村幸四郎 訳 / 筑摩書房 414//H58

もし眠れないとき、これを読むことは比較的早く眠りにつけるので眠りのために推薦する。一切感情を捨て、ただひたすら約束(公理)のもとで論理的に議論し真理を導く。それは宗教よりも高尚である。何が楽しくてこのような数学をやるのだろうか。そこには、嘘も詭弁も会話もなくただ永遠の真理の世界のみが存在する。そこは恐ろしく静寂で青くみえる空間である。人に会い、この本で覚えたことをすぐ人に話さないと怖くなる。



アメリカの詩を読む (岩波セミナーブックス 75)

川本皓嗣 著 / 岩波書店 931//Ka95

マニヤックかもしれないが、初めてアメリカだけの詩を読む人、その人にとっては入門書。比較文学の著者が詩の作成の定義(ルール)、詩の解釈を丁寧に説明してくれる。それは入門書以上のものである。アメリカ詩人の自由奔放な詩の世界にゆっくりと浸かってみると、自分の普段の会話がいかにも品のないものか恥ずかしい。目をつぶって西洋、アジアとも違う楽しく深遠なアメリカ情感を本の一時電車の中で味わうことができる。



理学部数学科 小木曾岳義先生

「大発見」の思考法：iPS細胞 vs. 素粒子

山中伸弥, 益川敏英 著／文藝春秋 404//Y34

この本は、2008年にノーベル物理学賞を受賞した益川敏英先生が、2012年にノーベル生理医学賞を受賞した山中伸弥先生に次々と鋭い質問をしていく形で、展開して行く、対話型の形式でまとめられている本である。この本の中で、特に面白かったのが、セレンピリティーについての議論と、失敗談である。(ちなみに、この本の出版は2011年で、この時、山中先生はまだ受賞をしていません。)



攻める健康法：「守り」におさらば! たぎる肉体を取り戻せ

三浦雄一郎 著／双葉社 498.3//Mi67

大きな目標を達成するために、どの様に準備をし、どの様な心構えで望むかということが書かれている。登山に限らず全ての大きな目標にチャレンジしていくことに通じる内容が、大変ユーモアたっぷりの文章で語られている。幸運にも今年3月に著者にお招き頂く機会があり、80代とは思えない若い考えと肉体をお持ちの方だと感じた。



理学部化学科 石川満先生

アメリカからの「宣戦布告」(GHQ 焚書図書開封 9)

西尾幹二 著／徳間書店 023.8//N86//9

日本は1941年に米国と戦争を始めて45年に敗北した。なぜ、日本(米国)は米国(日本)と戦争したのか。当時の日本の立場を著した書籍は米国の政策によって、終戦直後、日本国民の目から封印されてしまった。本書を含めた1~9巻には、日米開戦に至るまでの経緯を含む戦前の日本の国際的立場が克明に記されている。今日の米国の対日外交、TPP交渉など、における時代を越えた対日政策の根幹を理解するためにも本書(第9巻)は極めて有用である。

フリーエの冒険

トランスナショナルカレッジオブレックス 編

／言語交流研究所ヒッポファミリークラブ 413.59//To66

本学生も含め、数学を使う立場の理工系なのに数学の学習に抵抗感を抱いている学生は少なくないでしょう。その原因のひとつは、一般に数学書の記述が無味乾燥なことが挙げられます。無味乾燥とは「定義あるいは公理→定理の証明→例題→演習問題」という流れであり、“なぜそのような考え方や方法が必要か”や“何があるがたいのか”といった十分な説明がないことを指します。本書は無味乾燥とは一味違う数学書なので、化学・薬学生に一読を薦めます。



理学部化学科 宇和田貴之先生

陰謀の日本中世史

呉座勇一 著／KADOKAWA 210.4//G74

事実は往々にして複雑であり単純化して語ることは難しいものだが、そんなことはお構いなしに断言してくれるのが自然科学では似非(エセ)科学であり歴史では陰謀論である。それらは単純すぎるほどの「わかりやすさ」や信じたいことを信じさせてくれる「心地よさ」のために人気があるが、当然真実ではない。本書は本能寺の変や関ヶ原の戦いなど日本史で人気のある事項について、最新の学説を紹介しつつこれらについての陰謀論を批判・論破し、最後にはなぜ陰謀論が跋扈(バッコ)するかを検証している。ある程度歴史の事前知識は必要になるが、これを読めば似非科学も含めて「わかりやすさ」「心地よさ」に騙されないようになる、かもしれない。それをリテラシーといって大学生に求められるものだと思う。



三国志きらめく群像

高島俊男 著／筑摩書房 222.043//Ta54

歴史の入門に最もよいのは優れた歴史物語を読むことで、その次の段階がいろいろな資料を検討して多面的に歴史を捉えることです。中国・三国志の物語(三国志演義)、正史(正統な歴史書)、その注釈など多くの文献に精通した著者が三国志の英雄の実像を列伝形式で紹介します。物語以上の奥深さを感じることでしょう。三国志の好きな人は是非読んでみてください。というか、三国志を知らないとなんの面白味もわからない、第二段階の本です。

大東亞科學綺譚

荒俣宏 著／筑摩書房 402.8//A64

つい数十年前まで、科学はプロジェクトで行うものではなく、もっと個人的な営みであった。それゆえ研究者の個性を直接反映するものであった。本書ではそんな時代の日本の科学者として、アジア初のロボットを作った西村真琴、星新一の父で星製薬創立者の星一、不良華族にして鳥類学者・蜂須賀正氏などを紹介している。彼らの生き様に科学に魅せられたものに通底する爽やかさを感じとることだろう。

誰も教えてくれなかった実験ノートの書き方

： 研究を成功させるための秘訣

野島高彦 著／化学同人 407//N93

記憶とは思いの他あやふやなもので、都合よく思い込みをしていたり、肝心なことを忘れてしまったり、また時間が経つと薄れてゆくものです。忙しいとなおさらです。そこでどんなことも書き留めて記録することが重要になりますが、それを学ぶ良い機会が理系ならば実験ノートです。単に実験条件や結果をメモするだけではなく、計画や考察やアイデアを文章としてまとめることで、見返したときに実験を頭の中で再現できて様々なことに気づかされ、今後の指針も立てやすくなります。そんな役立つ実験ノートの書き方を教えてくれるのがこの本で、これを通して学んだ記録術は仕事においても応用できるものになるでしょう。



化学の歴史

アイザック・アシモフ 著／玉虫文一,竹内敬人 訳／筑摩書房

430.2//A92

著者は銀河帝国興亡史などで SF 小説の大家として知られているが、元々は化学者(専門は生化学)。大学で学ぶ学問を歴史の中に置き直し、その学問が成長するにあたっての人類のモチベーションを知ると学ぶ意欲も高まるものと思うが、本書は化学を学ぶ学生にその成立過程を教える、いわば化学興亡史。多彩な登場人物が少しずつ化学を発展させてゆく様は一つの大きな物語であり、君たちも将来そこに登場できる、と信じて学んで欲しい。



スパイス、爆薬、医薬品：世界史を変えた17の化学物質

ペニー・ルクター、ジェイ・バーレサン 著／小林力 訳

／中央公論新社 430.2//L46

人類の歴史の各段階、例えば大航海時代、産業革命、帝国主義のそれぞれにおいて大きな役割を果たした“分子”をその構造式とともに解説している。歴史を化学の視点から見つめなおした良書である。同時に、天然物由来の分子の“発見”から需要が生まれ、その結果として天然物と全く同じか改良した分子を人類が合成することに成功した例の紹介にもなっており、化学史の観点からも示唆に富んでいる。

**これだけは知っておきたい化学実験セーフティガイド**

日本化学会 編／化学同人 432.1//N77

化学の実験では安全と環境に十二分に配慮しなければいけません。これは大学でも企業でも同じことです。しかし、それを疎ましく思っただけではいけません。その安全と環境への配慮をよく理解することは、化学という学問の奥深さを理解することと同じ意味を持ちます。化学は役に立つものだからこそ危険を伴うということです。日本化学の総本山がまとめたセーフティガイド、一度目を通して損はないと思います。

**雪**

中谷宇吉郎 著／岩波書店 451.66//N44

ファールブル『昆虫記』、ファラデー『ロウソクの科学』と並ぶ科学読物が、この中谷宇吉郎『雪』である。著者の天然雪の観察に始まる雪に関する研究を紹介した内容となっているが、興味を惹くのは研究そのものよりも、これを例に紹介される科学研究の「方法論」。テーマ選びから問題設定、実験、データのまとめ方、考察まで、一流の研究者がいかんにして研究を進めるかを丁寧に見せてくれている。研究職に興味がある学生に推薦したい。



牧野富太郎：なぜ花は匂うか

牧野富太郎 著／平凡社 470.4//Ma35

牧野富太郎は明治時代から昭和初期にかけて活躍した植物学者で、「日本植物学の父」と呼ばれています。日本全国を採集旅行をして歩き数多の新種を見つけ分類すると同時に、植物図鑑を作り日本の植物の豊かさを広めた大功労者です。一方でこの方、小学校中退という、今では絶対に考えられない経歴の持ち主でもあります。それでも大学者になれたのは、黎明期ならではの面白さではありますが、それだけ彼が国民に人気があった証拠でもあります。その彼の人気の一端がエッセイに垣間見えます。科学的であるのみならず、万葉集などを引用する詩心、四季への高い感性が垣間見え、幅広い教養と植物への愛情が伝わってきます。さすがに時代がかった文章で今の若者には読みづらいとは思いますが、彼の「写真を越えた」と言われる特徴を捉えた植物のスケッチだけでも見る価値があります。



ねじとねじ回し：この千年で最高の発明をめぐる物語

ヴァイトルト・リップチンスキ 著／春日井晶子 訳／早川書房

531.44//R93

1543年に鹿児島・種子島にポルトガル人によって鉄砲が伝えられ、当時の日本人はそれを国産化しようと躍起になりました。しかし、鉄の加工の得意な日本人でも困ったのが、銃身をふさぐネジでした。溶接のフタでは火薬の爆発に強度的に耐えられないためどうしてもネジが必要だったのですが、そもそもそれまで日本、いや東洋にはネジがありませんでした。つまり、鉄砲の伝来は西洋からのネジの伝来でもあったのです。この本はそのネジを、西洋の機械文明を支えたこの千年で最高の発明として起源を調べています。単なるネジの話と聞ききや、西洋の文明史としてとても面白く展開するスリリングな読み物です。



ゼロからトースターを作ってみた結果

トーマス・トウェイツ 著／村井理子 訳／新潮社 545.88//Th9

イギリス大学院生が、卒業研究としてパンを焼くトースターを「一人で」「完全に一から」作ろうとした過程をブログで公開し、それをまとめた本です。パンを焼くだけにしか使えないトースターだって、鉄やマイカやプラスチックなど多くの原料からできています。著者は全ての原料をまず「採掘」(!)するところから始めそれを「精製」し、「加工」して部品にしてゆきますが、この過程一つ一つがとてつもなく困難であることが、彼の体を張った失敗からよくわかります。人類はその困難を一つ一つ乗り越えてきたのです。皆さんの手元の工業製品が、いかに多くの人の手を経て完成したものであるか、多くの人の知恵の結晶であるか、よくわかると思います。



マネー・ボール

マイケル・ルイス 著／中山宥 訳／早川書房 783.7//L59

アメリカ・メジャーリーグにおいて、選手能力の統計学的な解析(セイバーメトリクス)を採用したオークランド・アスレチックスの GM ビリー・ビーンを中心に描いたノンフィクション。仕事をする上では数字こそが最も重要で、数字を元に判断することで経験や勘に頼らない合理的なマネジメントが可能となる。この本が描くのはその野球における実践。いずれ働く学生みんなに読んで欲しい。

ルポ電王戦：人間 vs. コンピュータの真実

松本博文 著／NHK 出版 796//Ma81

将来、人間の仕事の多くが機械に置き換えられるといわれている。例えば車の運転も自動化される見通しと言えばその現実味がわかるだろうか。そんな未来の現実に関心を持っているのがプロの将棋棋士であり、彼らは機械学習により格段に進歩した人工知能と対決しているが、旗色は良くない。機械が人間を上回る将来、人間は何を学んでどう生きるべきかの示唆を与えてくれる良書。



理学部化学科 竹村哲雄先生

本の中の世界

湯川秀樹 著／岩波書店 019//Y97

昔、東条英機、今、湯川秀樹と言われた時代の本。著者はご存知素粒子研究の先駆け日本初のノーベル賞受賞者で、理系の若者の憧れの的だった。帯に書いてある「読書の思い出を語り、若き日の回想を聞かせてくれる。」という宣伝文句を見るとつい読みたくなった。因みに、当時読書の道標として、「岩波文庫 100 冊の本」というのもあった。読むべき本がどんどん増えて若者は幸せだ。



哲学用語図鑑

田中正人 著／プレジデント社 130//Ta84

西洋人の考え方を可愛いイラストで、単純明快に図示しており、結構分厚いけれど楽しく読めます。それを道標として興味を持った本を読んでください。

世界を歴史的にかつ大局的にとらえる事も必要です。思想の変遷を辿ればその切掛けになります。科学者や数学者が思想家であることも多いので科学史とも連動しています。



パンセ 1,2巻

パスカル 著／前田陽一,由木康 訳／中央公論新社

135.25//P26//1,2

国語の教科書にも載っていた「人間は考える葦である」など、よく引用されるあの数学や科学の天才が書いた断片的な思想を集めた本です。読んだ人も多いと期待しますが、まだなら是非最後まで全部読んでみてください。若い諸君の人生観が深まるかもしれません。実際に君達の年頃に僕が読んだのは、中央公論社「世界の名著」のパスカルでした。



狂ったサル：人類は自滅の危機に立っている

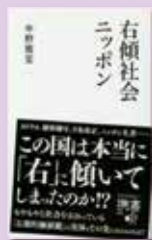
A.セント・ジェルジ 著／国弘正雄 訳／サイマル出版会 304//Sz

著者はビタミンCの発見者で癌研究に心血を注いだノーベル賞受賞生化学者。こういう人こそ偉人と言える。歴史は激動し当時と比べて世界はまるで変わった！それなのに、著者の心配はまったく解決されていない。それどころか、当時よりむしろ悪化したかもしれない。何故なんだろう？付録「人間賛歌と六つの祈り」には学生の傾心を打たれた。

右傾社会ニッポン

中野雅至 著／ディスカヴァー・トゥエンティワン 311.3//N39

本というものは世の中には色々な考え方があることをじっくり教えてくれる。本学図書館が力を入れているように若いうちこそ沢山読むべきである。表題の日本に限らず、世界中が右傾化していると言われる今日、右傾化についての分析も重要である。益々激動する世界を君達が付和雷同せず冷静に生き抜くのに役立つかもしれない。



ポスト資本主義：科学・人間・社会の未来

広井良典 著／岩波書店 332.06//H71

著者は科学史・科学哲学専攻です。近年の宇宙論は『複数の“宇宙環境”の中で、いわば人間の存在を可能とする環境的条件を探る学問という性格を帯びてきている。』

しかし、『近代科学においては、生命や自然を含む世界は“機械論的”に、つまり受動的な存在として理解され、・・・“一本道の科学”であり、対象や地域や空間の「多様性」ということへの関心は背景的なものだった。』

さらに、『鎮守の森』や『アインシュタインの宇宙的宗教感情』も登場し、最後に、『個別分野の縦割りを超えた超長期の時間軸で物事をとらえ考えなければ、現に起こっている事態の意味や今後の展望が見えてこないような、大きな時代の分岐点に私たちは立っているのではないか。世界の持続可能性や人々の幸福という価値を基準にとった場合、定常化あるいは「持続可能な福祉社会」への道

こそが、私たちが実現していくべき方向ではないか。』と結論しています。



日本辺境論

内田樹 著／新潮社 361.42//U14

私達の世界は相対的なので、自分が住んでいる所が、どの位辺境かどうかは明確ではないとも思えますが、例えば日本の水戸黄門の本質が、「外来の権威を前にすると思考停止に陥る人々のうちに自分たちの似姿を見て、「なるほど私たちの心理はこのように構造化されているのか」と無意識のうちに再認しているのです。」など色々面白いことが書いてあります。世界観を形成する際、人の意見は参考になり、本はその切っ掛けの一つになるかもしれません。



学校の戦後史

木村元 著／岩波書店 372.107//Ki39

皆さんは当たり前のように大学で学んでいるかもしれませんが、昔はそうでもなかったことが分かります。自分を振り返り大学で学ぶ意義を考え大学生生活半ばで自分を位置付ける機会になるかもしれません。

専門家により熱意をもって集められた学校に関する資料として貴重です。誰も学校教育を避けて通れないので教員を目指す人に限らず一読に値します。



暴露：スノーデンが私に託したファイル

グレン・グリーンウォルド 著／田口俊樹, 濱野大道, 武藤陽生 訳

／新潮社 391.6//G83

最超大国かつ世界の警察であるアメリカ合衆国の二大情報機関NSAとCIAにいたエドワード・スノーデンは正義感から命がけで内部告発した。そして今も身動きが取れずにロシアにいる。著者は極めて困難な状況下で主人公に会い機密文書を手に入れる。どんなフィクションよりはらはらす。内容と告発の評価については読者に委ねられる。話題は沈静化しているが、最近でも「スノーデン、監視社会の恐怖を語る 独占インタビュー全記録」小笠原みどり著(毎日新聞出版)など関連する本も出ている。



不思議の国のトムキンス (ガモフ全集 1)

ジョージ・ガモフ 著／伏見康治,山崎純平 訳／白揚社

408//G18//1

例えば光速が 20 km/h だとしたら世界はどう見えるかという仮定や誇張というトリックを用いて、大物理学者が一般人のために漫画チックに余裕で書いた科学啓発書なので、まるで童話やSFを読むように不思議な魅力があった。高校生の時に物理学って何て深淵なんだろうと思った。



※書影は復刻版のものです。

ロウソクの科学

ファラデー 著／三石巖 訳／角川書店 430.4//F15

ロンドンの貧しい鍛冶屋の家に生まれたマイケル・ファラデーの偉大さを象徴する本。物理と化学の両方の教科書に登場する清貧の科学者。自然に対する簡素で柔軟、真摯な態度、天性の洞察力和情熱があるからできる努力や工夫、そして高潔さと人に対する温かさがあったからこそ、科学史において巨大な足跡を残したことを納得してしまう。



双子の遺伝子：「エピジェネティクス」が2人の運命を分ける

ティム・スペクター 著／野中香方子 訳／ダイヤモンド社

467.3//Sp3

生物学は 21 世紀になり益々発展し重要になってきた。なぜ双子は同じ遺伝子を持っているのに表現型が違うのか？ 遺伝子のオン・オフのスイッチの入り方が変わることによって、遺伝子の働き方が後天的に変わることが分ってきた。僕は一卵性双生児の父親でもあり、“光合成細菌の遺伝子が発現するかしないか、Stereochemical control in asymmetric reduction of ketones by deletion mutants of Synechocystis sp. PCC6803”のような研究をやっていたので実感する。本書は若者に「遺伝子スイッチ」を押してより充実した人生を送る方法を解き明かしてくれる。



がん難民をふせぐために：抗がん剤・放射線治療の基礎そして福島へ 井手禎昭 著／本の泉社 494.5//I19

若手医師が初めて著した本で、表題から受ける印象とは違い、医療や原子力発電の問題に真面目に取り組み、一般人に分かり易く説明しようと努力するユニークな内容で、副題中に放射線治療の基礎とあるように、分かり易い放射化学の教科書のような章もある。



新編銀河鉄道の夜

宮沢賢治 著／新潮社 913.8//Mi89

表題の物語を含む童話集。勉強に疲れた時息抜きに読んだらどうでしょうか。著者は、ご存知、農学・自然科学・宗教をバックグラウンドに、文学・童話、教育、倫理など広く影響を与え、根強いファンが多い人。「ゼロ弾きのゴーシュ」は後年読み直した際に自然界に生きる人間の真摯な仕事観にうたれた。読みが浅かった。遅かった。君たちはその轍を踏むな。思考の整理の大家・外山滋比古さんは「本の知識が役立つのは30代まで。40歳を過ぎたら本に頼らず、自分で考えることが必要」と断言しています。年取ると読書が将来役に立つはずであろうという期待感が激減し知識が新鮮に頭に入りません。読むならどんな本でも“今です！”。



終末の思想

野坂昭如 著／NHK出版 914.6//N97

水や空気のように今の日本では当たり前のようにあると思われる食料。農業が衰退したらどうなるか、それどころか著者(2015年没)は既に「日本は食の敗戦国である」という。表題のように暗い内容だが、たとえ何があってもめげずに逞しく生きよというメッセージが聞こえることを期待する。昔だって乗り越えられたのだから。



小さな王子さま

アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ 著／山崎庸一郎 訳／岩波書店

957//R56

冒頭で「昔子供だった頃の大人に」と友人宛に言っています。僕の経験では、ちょうど作中にあるように話題にするのがためらわれる位、よく分からないので途中で投げ出したという人が多数派で、それ以上話が進まないことが多いです。読めばもしかしたら、君も失われた何かを取り戻すことができるかもしれませんよ。実際に君達の年頃に読んだのは岩波書店の内藤濯訳「星の王子さま」でした。



ラ・ロシュフコー箴言集

ラ・ロシュフコー 著／二宮フサ 訳／みすず書房 953//Sa22

「われわれの美德は、ほとんど常に、仮想した悪徳にすぎない。」人との出会いが偶然であるように本との出会いもまた偶然です。そそっかしい僕はこの著者を理系の誰かと間違えて読んでしまいました。理系文系を問わず若い皆さん。所謂大人には当たり前過ぎて毒にも薬にもならないのですが、純粋な人は免疫をつけるために、生真面目過ぎて引き籠りがちな人は治癒するために、超苦い薬ですが飲むことをお勧めします。虚心坦懐正しく受け取れば多分生きるのが楽になります。皆分かっていることだから普通は誰も教えてはくれません。人間とはこういうものなのだから悩みなさんな。安心なさい。逆手にとって自由に生きるのです。



理学部教養 伊藤陽先生

ねじとねじ回し：この千年で最高の発明をめぐる物語

ヴァイトルト・リプチンスキ 著／春日井晶子 訳／早川書房 531.44//R93

回転運動を直線運動に変換する為の、最も簡単かつ確実な手段であるネジ。ネジは、部品の組み立て、調整・測定、と科学・技術にも日常生活にも強く結びついている。この書物では、ネジが確かにこの千年で最高の発明であることが、著者と共に追体験できる。読書後には、たった一つのネジが、数千年にわたる人類の努力の結晶であることに、感動すら覚えるであろう。残念ながら、精密ネジの製作方法の詳細は記述されていない。更なる勉強を始めるためにも、格好の1冊である。最近の情報機器には、頭が+でもーでもない特殊ネジが多用されている。それどころか、両面テープで組み上げられた機種も多い。進入禁止！である。そのメリット・デメリットは何なのか、技術動向を考えるきっかけにもなりそうだ。



■ 薬学部薬学科 萩原政彦先生

セレンディピティと近代医学：独創、偶然、発見の100年

モートン・マイヤーズ 著／小林力 訳／中央公論新社

490.2//Me95

本書には、この100年間の医学(薬学)の進歩に、セレンディピティがどのように貢献したかが書かれています。医学の発見史上、有名なエピソードが数多く記載されており、読者は特別な予備知識がなくても、気軽に読み始められます。



■ 薬学部薬学科 武内智春先生

線虫の研究とノーベル賞への道

：1ミリの虫の研究がなぜ3度ノーベル賞を受賞したか

大島靖美 著／裳華房 483.73//077

ノーベル賞を受賞した「プログラム細胞死」「RNA干渉」「緑色蛍光たんぱく質」などの発見の経緯などが記されており、単純に科学の発展の歴史の読み物としてだけでなく、同時に分子生物学や細胞生物学の勉強にもなる本かと思います。

薬学部や理学部の学生にとって勉強になる読み物というだけでなく、ノーベル賞という一般に広く知られた賞を題材としておりますので、もしかすると文系の学部や学生さんたちにとっても手に取りやすく、教養を深めるために役立つかもしれません。



■ 薬学部薬学科 畑中朋美先生

サピエンス全史：文明の構造と人類の幸福 上・下

ユヴァル・ノア・ハラリ 著／河出書房新社

209//H32//1,2

「人間はなぜ生まれて、どこへ向かって行くのか？」誰もが多少なりとも一度は抱く疑問ではないでしょうか？この本にはその答えのヒントが隠されています。ビル・ゲイツ、ザッカーバーグ、そして畑中が絶賛する世界的ベストセラーです。一読をお勧めします。



■ 薬学部薬学科 渡辺知恵先生

バッタを倒しにアフリカへ

前野ウルド浩太郎 著／光文社 486.45//Ma27

人類史がはじまって以来、何人たりとも解決することができなかったアフリカの食糧問題に直結するバッタ問題「神の罰」に立ち向かい、一攫千金ならぬ己の人生をかけてサハラ砂漠のあるアフリカ・モーリタニアへ渡った若き日本人研究者バッタ博士の奮闘記。非常に軽快な文章で読みやすく、苦難に遭っても、ユニークな方法で解決していき、適応していく姿は、非常にユーモラスで、共感を覚えるとともに、未知のものへの興味と、夢と希望を与えてくれる一冊である。



若き薬剤師への道標：薬学・薬剤師の歴史を辿り、現在を照らす

佐谷圭一 著／薬事日報社 499.04//Sa99

薬学・薬剤師における歴史や今日行われている業務になった経緯、著者の薬剤師としての経験談、人生考などが、コラムの形で興味深い写真とともに紹介されている。著者の若き薬剤師への熱いメッセージや人生考に、今一度自分自身を内省させられる一冊である。



薬局新時代：薬樹の決断：「まちの皆さま」の健康を支えるために

鶴時靖夫 著／IN 通信社 499.095//Ts85

薬剤師と管理栄養士の連携、「かかりつけ薬局」としての地域の健康への貢献、在宅医療においてターミナルケアを中心とした薬剤師の訪問によるサポート。本書では、「まちの薬局」薬樹株式会社、真に患者に寄り添う新しい薬局のかたちに向かって、これらの実現に向けた挑戦が記されている。社会における薬局の新しい流れを感じ取るとともに、薬剤師や管理栄養士に対する社会の期待、責任、やりがいを感じて頂き、さらに新しい将来を創造する糧として頂きたい一冊である。



■ 薬学部薬科学科 杉林堅次先生

薬剤師・管理栄養士のための今日からはじめる薬局栄養指導

杉林堅次ほか 著／日経メディカル開発 編／日経メディカル開発

498.58//Su32

城西大学薬学部は薬剤師を養成する薬学科と管理栄養士を養成する医療栄養学科という2つの Professional School を擁し、かつ薬科学科といういわゆる college を擁す我が国では唯一かつ最大の薬学部である。また、本学部にはさらに4専攻を有する薬学研究科が連なって学生に幅広い進路を提供している。Interdisciplinary sciences の重要性が叫ばれる今だからこそ、学生はもちろん若い教員にもこの特長を有効に活用し、勉学に励み今後のキャリア形成に生かしてもらいたいものである。



医療栄養学科の後援で2006年から「薬局管理栄養士研究会」が開催されてきたが、この研究会開始から10年を経て、やはり薬剤師と管理栄養士の協業の大切さをさらに啓発すべきであるという信念のもと本書の企画がスタートした。本書は前述した研究会の常連メンバーを中心に学内外から多くの方の共同執筆によって上梓されることになったが、自ら管理栄養士でありながら他大の薬学部勤務を経由して本学医療栄養学科の准教授となられ今年から薬学研究科栄養政策管理分野の中心教員として活躍される堀由美子先生、本学薬学部と埼玉県立大学、埼玉医科大学、日本工業大学と多職種連携教育(IPE)の中心メンバー、そして薬学研究科医薬政策管理分野で活躍されている薬学科准教授の細谷治先生、さらに本学を卒業し管理栄養士実務家としてのキャリアを積み本学に戻ってこられた加藤勇太助教に多くのページをお任せした。

未病対策としての栄養、疾患時の栄養は薬物治療に比べて勝るとも劣らない重要要素である。市中の薬局等で働いておられる薬剤師や管理栄養士、さらにはこれらの卵である学生、特に本学の薬学部生・薬学研究科大学院生にはぜひ一読をお願いする次第である。

■ 薬学部医療栄養学科 君羅好史先生

栄養学を拓いた巨人たち：「病原菌なき難病」征服のドラマ

杉晴夫 著／講談社 408//B59//1811

教科書に出てくる栄養素や体の仕組みが、いつ、どのように発見され、解明されてきたのかを知ることができる一冊です。研究者たちの命をかけた研究によって確立されてきた栄養学の歴史に目を向けることで、勉強がより一層面白くなると思います。



美味礼讃

海老沢泰久 著／文芸春秋 913.6//E15

日本に初めてフランス料理をもたらしたといわれる、辻調理師学校の創設者・辻静雄氏をモデルにした小説です。料理の素人が本物を極めるためにフランス全土のレストランを食べ歩き、名だたる料理人たちとの交流を経て本物のフランス料理を日本に伝えようと奮闘した人生がつつられた一冊です。人生において、本物を知ることの大変さと大事さがわかる本です。



■ 薬学部医療栄養学科 山王丸靖子先生

嵐が丘 上下

エミリー・ブロンテ 著／河島弘美 訳／岩波書店 933//B75//1、2

「私よ、開けて」と亡霊キャサリンが窓を叩く衝撃的なシーンから始まる2家族の愛憎の物語である。物語は女中の口を通して、無関係な旅行者へ淡々と語られる。これでもかこれでもかと、悲惨な展開が進む。しかし、それでも人間は希望を捨ててはならないのだ。「嵐が丘」は人間の考える得る最高の奇体な物語である。



薬学部医療栄養学科 中里見真紀先生

アリス・ウォータースの世界

：「オーガニック料理の母」のすべてがわかる

小学館 596.23//A41



アリスのおいしい革命

アリス・ウォータース, NHK エンタープライズ取材班 著

／文藝春秋 596.23//W47



アリスのオーガニックレシピ

アリス・ウォータース, NHK エンタープライズ取材班著

／文藝春秋 596.23//W47



シェ・パニースへようこそ

：レストランの物語と 46 レシピ

アリス・ウォータース 著／アン・アーノルド 絵

／坂原幹子訳／京阪神エルマガジン社

596.23//W47



1971年にアメリカ合衆国サンフランシスコ郊外のパークレーに世界初のオーガニックレストラン「シェ・パニース」がオープンしました。このレストランでは地元オーガニック食材だけを使った日替わりコースメニューが1種類だけ提供されています。これはこのレストランを作った女性、アリス・ウォータースの信念です。

『アリス・ウォータースの世界』では、自然と共に生きるアリスの日常とシンプルで素材を生かしたレシピなどが、インパクトのある綺麗な写真と共に紹介されています。

『アリスのオーガニックレシピ』では、シェ・パニースの人気メニューを中心に 20 種類のレシピが紹介されています。調理方法やポイントなどが丁寧に記され、すぐにでも作りたくなるレシピばかりです。

『アリスのおいしい革命』は、アリス・ウォータースが提唱する有機栽培、地産地消、スローフードがキーワードとなる 9 つの料理の原則をレシピと写真と共に紹介した 1 冊です。アリスのおいしい革命やレシピには、人生を豊かにする知恵が詰まっていて、読み終わると

食材や食そのものを大切にしたいと思います。

『シェ・パニースへようこそ～レストランの物語と 46 レシピ～』は、手書きの可愛らしく美味しそうなイラストと共に、アリス・ウォーターズの娘ファニーが簡単なレシピをたくさん紹介する絵本です。シェ・パニースで起こる事件の数々をファニーが楽しくお話してくれるので、子供たちと一緒に読むととても盛り上がります。

絵とき金子さんちの有機家庭菜園

金子美登 著／守田勝治 絵／家の光協会

626.9//Ka53



イラストでわかる有機自給菜園

： 無農薬栽培、堆肥づくりから自家採種、

エネルギー自給まで

金子美登 著／川野郁代イラスト／家の光協会

626.9//Ka53



1971年にアメリカのバークレーで世界初のオーガニックレストラン「シェ・パニース」がオープンした年に、日本の埼玉県小川町では金子美登さんが農業者大学校を卒業し、有機農業を始めました。金子さんは減反政策や公害問題がある中で、「安全でおいしく、栄養価のある」ものをつくり、豊かに自給していくことこそこれからの農業に必要であると言っています。城西大学から車で30分ほどの距離にある小川町下里地区では金子さんの有機農業に対する熱意を周りの人々が受け取り、地域で有機農業に取り組んでいます。金子さんの著書である『イラストでわかる有機自給菜園』や『金子さんちの有機家庭菜園』では、イラストを交え、土作りから作付けの方法、野菜の育て方まで詳しく紹介されています。完全有機栽培で世界の有機栽培の聖地となっている霜里農場のオーナーである金子さんの著書は食の専門家である管理栄養士を目指す学生の皆さんや食に興味のある方におすすめできる本です。

■ 薬学部医療栄養学科 松本明世先生

イベリコ豚を買いに

野地秩嘉 著／小学館 648.2//N93

食べることが好きな人へお勧めです。スペイン料理で最高の生ハムの原料となっているイベリコ豚への愛情豊かな育て方を垣間見てください。ほんとうに美味しい本物の生ハムが食べたくなっています。



地鳴き、小鳥みたいな

保坂和志 著／講談社 913.6//H91

芥川賞作家 保坂和志の短編集、とにかく不思議な文章構成で、読んでいると思いが変になりそうな話の数々です。しかし、普段のとりとめのないお喋りの文脈は、「将にこれら文章のようだ。」と感心させられます。自分の無意識でおこなっている思考をみつめることができそうな1冊です。



口福無限

草野心平 著／講談社 914.6//Ku84

城西大学で学んでいる学生の皆さん、草野心平を知っていますか。そう、「城西大学学歌」を作詞した、とても自然・生き物に造詣の深い詩人です。彼は、食への想いも超一流で、このエッセイを読んでいると、自分でも試してみたくくなります。バラの花びらの酢の物、とても美味しかったです。



■ 薬学部医療栄養学科 松本明世先生／

藤縄善朗鶴ヶ島市長

ニッポンの奇祭

小林紀晴 著／講談社 386.1//Ko12

『ニッポンの奇祭』(講談社現代新書)購入、まずは脚折雨乞の章に目を通す。面白い。偉そうに言うが(脚折雨乞とのこれまでの関わりから、言ってもいい立場だ)、よく見てよく書けている。他の章もつられて読んだ。引き込まれた。著者に共感した。「奇祭」という書名は、出版社や編集者の意向だろう。

(鶴ヶ島市長 藤縄善朗様が Facebook に紹介された書評です。藤縄様に記事の使用をご許可いただきました。)

参考:『埼玉のまつり』開架 3 階 386.134//Ta33

『埼玉のまつり(埼玉ふるさとシリーズ 3)』開架 3 階 386.134//Sa24



■ 薬学部医療栄養学科 真野博先生

忘れられた日本人

宮本常一 著／岩波書店 382.1//Mi77

宮本先生は、私の恩師の恩師です。歴史には名前を残さない一人一人の住民が、懸命に生きた時代の記録です。一人の力は弱くとも継続し、努力すれば大きな成果がえられるということが分かります。

思い込み弁当

： 栄養士の卵 48 人が、大切なひとりのために考えたお弁当レシピ
 栄養学生団体「N」 著／セブン&アイ出版 596.4//E39

城西大学医療栄養学科の11、13、14期生の3名が、思いを込めて作ったお弁当が掲載されたレシピ本『思い込み弁当』です。

この『思い込み弁当』は管理栄養士の卵である学生たち48人が大切な一人のために考えてつくったお弁当レシピを集めた本です。

医療栄養学科以外の皆さんにも参考になるレシピが必ず見つかると思います。



職漁師伝： 溪流に生きた最後の名人たち

戸門秀雄 著／農山漁村文化協会 664.2//To28

日本各地の職漁師に関する興味深い話を取材という形かたちでまとめてあります。食文化、民俗学、地域、河川環境、民具に興味のある皆さんには読んでほしい本です。特に、最後は、高麗川の「最後の川漁師」の話など貴重な内容が書かれていますので、高麗川プロジェクトに関わる皆さんにとっては必読書です。



薬学部医療栄養学科 松本明世先生、真野博先生

地域食材大百科 1-15 巻

農文協 編／農山漁村文化協会 596//N97//1-15

「川越いも」と呼ばれる「紅赤(サツマイモ)」や「下仁田ネギ」など、日本各地の伝統的な食材が紹介されています。自分が生まれ育った地域や、今生活している地域のおもしろい食材を探してみよう！

※この本は松本先生、真野先生の両名からのおすすめです。

※3F 参考書コーナーにあります。



■ 語学教育センター 高嶺エヴァ先生

外国語上達法

千野栄一 著／岩波書店 807//C47

千野栄一さんは東京外語大学で教授・和光大学で学長を務められた方で、語学の達人と言われた方です。30年ほど前に書かれた本ですが、語学習得のやる気にさせ、エッセイのような読み物としても面白い本です。

■ 語学教育センター 中村一輝先生

グレート・ギャツビー

スコット・フィッツジェラルド 著／村上春樹 訳／中央公論新社

933.7//F29

本書は村上春樹氏によって訳し下された、数ある翻訳書の1つです。近年では、レオナルド・ディカプリオ主演の映画で公開され、注目を浴びました。原書で読むことが1番良いのは確かですが、まずは名訳で読んでみるのはいかがでしょうか。



通訳/インタープリター

スキ・キム 著／國重純二 訳／集英社 933.7//Ki31

本書は韓国系米国人作家スキ・キムの処女作の翻訳です。私がここ2、3年以内に読んだ翻訳書でもっとも衝撃的なものでした。翻訳書では伝わらないはずの生き生きとした文体が、格調高い日本語で味わえます。



ニューヨークを読む：作家たちと歩く歴史と文化

上岡伸雄 著／中央公論新社 930.29//Ka38

ニューヨークを舞台に描かれる小説を中心に解説がされています。アメリカ小説とその歴史や文化の縮図がニューヨークを読むことによって見えてくると気付かせてくれる 1 冊です。



英語達人列伝：あっぱれ、日本人の英語

斎藤兆史 著／中央公論新社 830.4//Sa25

私が大学に入学してから始めて読んだ本です。偉人達はどのようにして英語を習得したのか、詳細に記述されています。英語の学習の以前に日本語を大切にすることを強く感じさせられた記憶があります。



短期大学ビジネス総合学科 杵渕友子先生

保守の真髄：老酔狂で語る文明の素乱

西部邁 著／講談社 311.4//N81

2018年1月21日に自裁した批評家、西部邁が「最後になる」と述べていた著書である。実際はその後に2冊が世に出ている。このように多産の氏の著作は、どれも読むに値すると思うが、それはON—OFFを問わず考え続けた人間に出逢うことができるという、希有な機会となるはずだからである。とくに本書を推薦する理由は、本人も引用している、J. オルテガの「絶望するものの数が増えることだけが希望である」からで、とくに若い方々には、しっかり絶望したあと、そこから希望をもって上がってほしいと願うからである。

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL : 049-271-7736 FAX : 049-286-8126
URL : <http://libopac.josai.ac.jp>
E-mail : library1@josai.ac.jp



発行日 2019年4月1日

発行者 城西大学水田記念図書館